

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化处理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。**本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。**なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】膵神経内分泌腫瘍の診療における超音波内視鏡下吸引組織診、細胞診の有用性の検討に関する後方視研究

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2007年1月1日から2020年5月31日の間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院 消化器内科、外科
- 3) 対象疾患名：膵神経内分泌腫瘍を認め内視鏡的な組織学的診断を要した方

【試料・診療情報等の項目】

試料：【内視鏡的診断目的に採取された細胞診標本及び組織標本】

診療情報等：【年齢、性別、身長・体重、病歴、既往歴、治療歴、血液検査データ（一般血算、生化学、腫瘍マーカー）、画像データ（CT, MRI, US, PET）、病理データ

【研究目的】膵神経内分泌腫瘍は稀な疾患ではあるが、最近の画像診断の進歩により発見頻度は上がっています。膵神経内分泌腫瘍は2017年のWHO分類にて、大きく高分化型と低分化型に分類され、さらに核分裂像や細胞増殖能などからグレード分類がなされています。分類によって治療方針は異なりますが、画像診断のみで判断するのは困難であり、またその他の膵腫瘍との鑑別が困難なことも少なくありません。そのため治療開始する前に組織学的検索が行われることが望ましく、最近では治療前組織学的診断を得るために、超音波内視鏡検査(EUS)を用いた細胞診、組織診断(EUS-FNA)が普及しつつあります。今回我々は、当院で経験した膵神経内分泌腫瘍に対してEUS-FNAが行われた症例における臨床病理学的特徴を明らかにすることで、今後の診断の一助になることを目的とし検討を行いたいと思います。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後から2024年3月31日まで

【利益相反に関する事項】本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する試料・情報の管理責任者）：

久留米大学医学部 内科学講座 消化器内科部門 准教授 岡部 義信

問い合わせ担当者：久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 島松 裕

電話: 0942-31-7561